

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県石巻市東部の鹿妻地区で29日、地域で生活する人々の集いの場ができる。その名も「HANAZUBI(はなぞう)」。カフェ文化が根付くフランスが起元の化粧品メーカー、日本ロレアル(東京)が、コーヒーやお茶を飲みながら、会話ができる場所として建設を進めてきたコミュニティカフェだ。ここで住民同士の話がはずみ、地域再生の本格化につながればいい。そんな願いが込められている。(米沢文)

## 日本ロレアル石巻にあす開設

「幼稚園に入る前の小さい子も安心して遊ばせることができるし、母親同士の交流もできる」。3人の子供を持つ加藤由美さん(38)は、HANAZUBIのオープンが待ち遠しい。

施設は空間デザインの大手、乃村工芸社が設計を担当したデザイン性の高い約80平方メートルの平屋だ。近隣住民ならコーヒーやお茶を無料で飲める。座敷やテーブル席も自由に使える。

「音楽や落語を聞ける場所にしたかった」「子供たちのために読み聞かせをしてほしい」「編み物やヨガなど、サークル活動の拠点にしたい」。住民からはすでにさまざまなアイデアが寄せられている。

ロレアルの委託を受けて運営に携わる特定非営利活動法人(NPO法人)「ジエン」(東京都新宿区)の森信之理事は「地域のみなさんを元気づける場所になってほしい」と、こうしたアイデアを取り入れていくつもりだ。

## 力を復興に 企業の番 出番

「ロレアルグループならではのカフェ文化を復興支援に活用できないか」

HANAZUBIの建設は日本ロレアルの井村牧副社長の思いつきから始まった。パリ発祥のロレアルグループは世界中に現地法人を持ち、それぞれの社内カフェを併設している。社員は部門や役職を越えて、交流を図る習慣がある。

同社は5月、被災地の支援方法を学ぶ社内セミナーを開いた。そこで講師に招いたジエンのスタッフが説明した、被災者同士の交流を兼ねた炊き出し構想にヒントを得た。

助言や調査を経て、支援場所には大津波の直撃を受けた石巻市を選んだ。同市

では3279人が死亡(24日現在)し、669人が行方不明のまま(1日現在)だ。

鹿妻地区は石巻漁港から1キロほど内陸にある。「親類宅や仮設住宅に転居した世帯が多く、約2600人だった住民は半分もいない」(ジエンの森理事)。

人が集まれるはずの公民館も裏の崖が崩れる恐れがあり、立ち入り禁止のまま。森理事は「市民同士のつながりが崩れる危険がある」と感じた。

ロレアルはカフェ文化を復興に生かせる可能性と必要性を感じ、HANAZUBIの建設を決めた。

建設費や人件費、光熱費はロレアルが負担する。監理、運営にジエンに関わってもらい、地元の数人をスタッフとして雇用することも決めた。いずれ地域に譲り渡すことが目標だ。

「成果が出るかどうかはこれからの運営次第だ。でも、出ると信じている。カフェで地元のにぎわいを取り戻すことができれば、関わった社員の士気も高まって社内の活性化にもなる。成果があれば、他の地域にもコミュニティカフェをつくりたい」

カフェの中で話に花が咲き、それが地元再生として実を結ぶ。そんな光景を井村副社長は心待ちにしている。

東日本大震災の津波岩手県陸前高田市のリソゴに「よく育った」でいる写真。

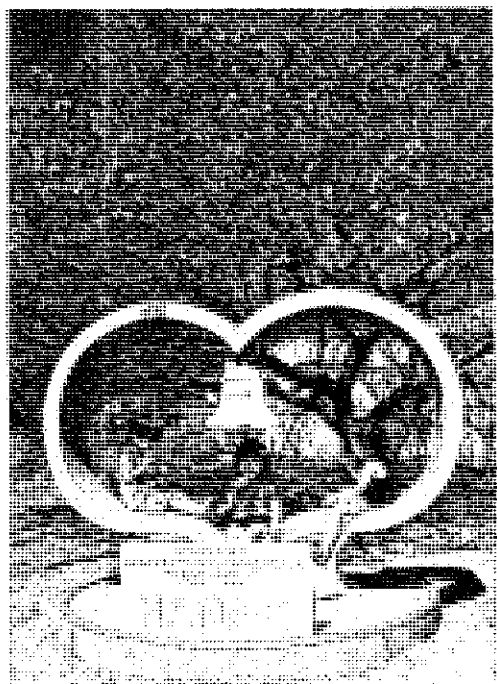
同市米崎の熊谷富里30年続くリソゴ畑は海の高台の斜面にあり、津波に約100本葉が流された。1千平方メートルの1が海水をかぶった。だが塩をかぶった多くの実をつけた。は減るが、それでも収穫できる見込みだ。以上来ている。長女(62)は「よく育った。お客さんに発送できる」

積み荷制限なし。石巻に大型船入

宮城県石巻市の石巻27日朝、東日本大震災で積み荷制限を、型船が入港し、石巻山紘市長ら関係者が掲げて出迎えた。

石巻港は津波で海砂が堆積し、一部で通常より1・6メートル浅かった。このため石巻を積んだ大型船は、港で積み荷の一部を減らさなければならない。国土交通省が10月、日に浚渫工事を実施

# 地域の絆 カフェで再生



④オープンを前に「HANA荘」のオブジェでくつろぐ子供たち  
=9月、宮城県石巻市(日本ロレアル提供)  
⑤HANA荘の入り口に花を飾るスタッフたち  
(米沢文撮影)

